黒谷和紙振興計画

令和４年１２月

黒谷和紙協同組合

黒谷和紙振興計画目次

Ⅰ　計画の策定に当たって
１　はじめに　……　３
２　計画策定の背景　……　４
３　計画の目的　……　４
４　計画の推進期間　……　４

Ⅱ　黒谷和紙の現状と課題及び継承すべき強み
１　黒谷和紙及び黒谷和紙協同組合の現状　……　６
２　黒谷和紙会館及び黒谷和紙組合の抱える課題　……　８
３　黒谷和紙工芸の里の継承すべき機能や強み　……１０

Ⅲ　新施設の整備提案
１　新施設の基本的理念　……１２
２　新施設の整備イメージ　……１３

Ⅳ　施設整備に合わせた黒谷和紙振興の取組
１　振興施策（ソフト事業）の考え方　……２９

Ⅴ　数値目標等
１　数値目標の設定　……３２
２　おわりに　……３３

Ⅰ　計画の策定にあたって

1　はじめに

黒谷和紙は、綾部の地に古来より伝わる伝統産業であり、綾部市の地場産業や地域文化、さらには観光資源としてもその存在は重要です。そのため、綾部市の伝統産業の一つとして黒谷和紙の存続を図り、黒谷の地で受け継がれてきた伝統技術を後世に伝えていく必要があります。

黒谷和紙の振興に向けては、平成６年に「黒谷和紙活性化ビジョン」が策定され、黒谷和紙の将来像を描く中で、生産・流通基盤の整備や観光の核としての役割、地域文化の拠点としての役割を集約した「黒谷和紙の里」構想が示されました。さらに平成６年・７年の２か年にわたり黒谷和紙に関するマーケティング調査も実施され、調査結果を踏まえて「黒谷和紙の里ビジョン」が平成９年に策定されました。

また、平成８年には黒谷和紙協同組合を設立し、黒谷和紙の生産機能及び販売機能等の効率的な運営を図りながら、組合員の意識高揚とともに黒谷和紙の活性化に取り組んできました。さらに、平成１７年度には、旧口上林小学校の跡地活用として綾部市の多大な支援を受けながら、紙漉き体験や和紙の展示販売、職人の作業場など黒谷和紙の振興拠点となる「黒谷和紙工芸の里」を開設しました。

こうした市と組合による多くの取組や黒谷和紙で長年受け継がれてきた伝統技術が評価され、平成１８年には京都府知事から「京もの指定工芸品」の指定を受けています。

しかしながら、これまでの取組の指針であった黒谷和紙の里ビジョンの策定から四半世紀が経過し、黒谷和紙工芸の里を開設して１５年以上が経過する中で、黒谷和紙を取り巻く状況の変化や新たな課題を受けて、綾部市の重要な伝統産業と自負する黒谷和紙の継承と活性化に向けて、当面の取組方針の提案として「黒谷和紙振興計画」を策定いたしました。

2　振興計画の背景

平成１７年度に旧口上林小学校の跡地活用として、黒谷和紙の振興を目的とした紙漉き体験や和紙原紙及び加工品の展示販売の拠点となる黒谷和紙工芸の里を開設しました。しかしながら、現在では施設の老朽化が著しく耐震上の課題も抱えています。また、伝統工芸大学校の撤退に伴い、施設利用の安定的な収入が途絶え、さらに新型コロナウイルス感染拡大による観光への影響から来場者並びに売上も大きく減少したため、現状においては黒谷和紙会館と黒谷和紙工芸の里の２拠点を維持・運営することが極めて厳しい状況となっています。

そのため令和３年４月より緊急的措置として、黒谷和紙工芸の里の機能を一部縮小することで運営の合理化を図っていますが、今後もこのような状態を維持していくことは非常に困難であるため、抜本的な見直しを行うことが急務となっています。

3　振興計画の目的

黒谷和紙は、助け合い、支えあいの精神を大切にしながら、今日まで８００年以上もの間伝統技術の継承が行われてきました。

全国でも数少ない純手漉き和紙である黒谷和紙を次世代へと確実に繋いていくため、伝統産業としての技術の伝承や後継者の育成など、事業継承のため必要と考えられる取組を「黒谷和紙振興計画」として策定します。本計画をベースとした黒谷和紙振興事業に取り組んで行くことで、将来にわたって持続可能な黒谷和紙を目指していこうとするものです。

なお、本計画については、これらの目的を達成するために特に重要と考えられる拠点施設の整備をイメージした基本計画の策定に重点をおいたものとしますが、施設整備に合わせて実施するべきソフト事業についても一定の整理を行います。

4　振興計画の推進期間

本計画の推進期間は、令和４年度から令和８年度までの５年間としていますが、事業の進捗や黒谷和紙を取り巻く環境の変化などを踏まえて適宜見直していく必要があります。振興計画の具体的な取組については、計画期間内に短期・優先的に取り組むハード事業（施設整備）と比較的中・長期的に取り組むソフト事業の両面で推進していくこととしています。

令和５年度は、本振興計画に基づく施設整備の具現化に向けた調査や基本設計などの準備を進める必要があります。また同時に、中長期的視野で継続的に実施していくべきソフト事業についても、並行して検討を進めることとしています。

黒谷和紙振興計画　　計画期間：令和４年度～令和８年度（５年間・期間延長あり）					
年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度以降
段階	基本構想	基本計画	事業実施		第２期事業の検討
主な取組	振興計画	計画実施に向けた準備	施設整備、ソフト事業の検討・準備		施設運営、ソフト事業の充実

Ⅱ　黒谷和紙の現状と課題
及び継承すべき強み

1　黒谷和紙及び黒谷和紙協同組合の現状

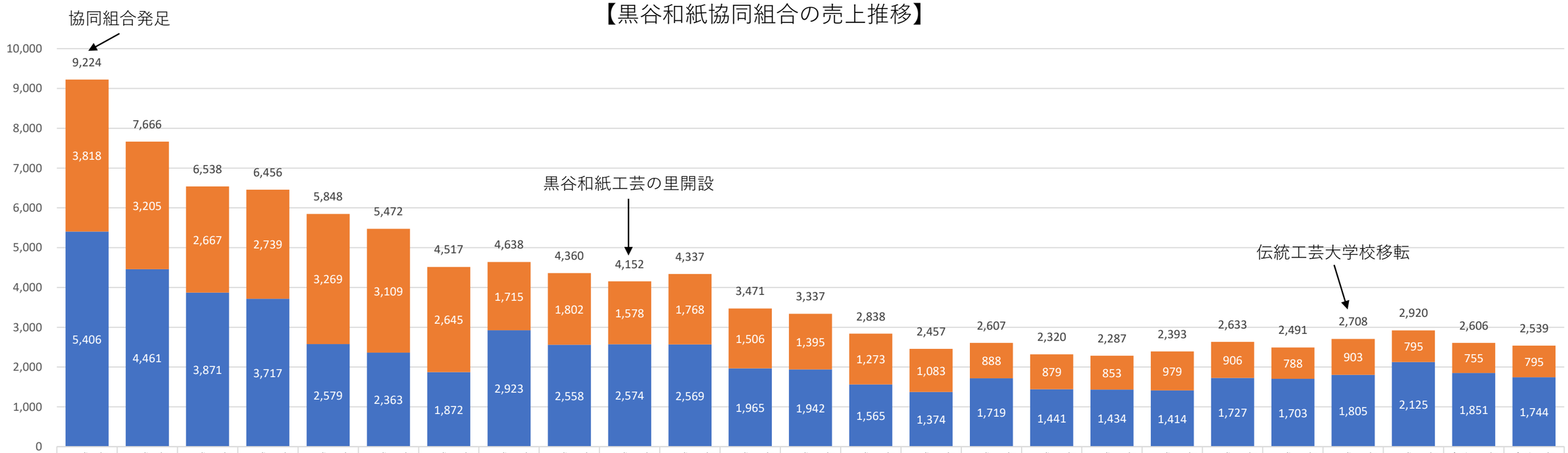
（1）売上の推移

黒谷和紙の売上（加工品売上含む）は組合発足時である平成８年の92,253千円から下降の一途を辿っており、黒谷和紙工芸の里開設時の平成１７年には41,524千円（平成８年比：約55％減）となり、直近の令和２年には25,401千円（平成８年比：約73％減）で、組合発足時の４分の１程度にまで落ち込んでいます。（下グラフ参照）

また、平成８年の組合発足時には31名の組合員（賛助会員含む）が在籍していましたが、黒谷和紙工芸の里開設時の平成１７年には15名（平成８年比：約51％減）となり、直近の令和２年には11名、実質的には9名（平成８年比：約71％減）で、まさに売上と比例するようにこちらも組合発足時の４分の１程度にまで落ち込んでいます。

これらの主な原因は、和紙需要の減少と組合員の減少に伴う組合の生産力の減少がベースにあると考えられますが、新たな販路開拓や商品開発など、営業戦略の見直しが必要となっています。

【黒谷和紙協同組合の売上推移】



	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
加工品売上	3,818	3,205	2,667	2,739	3,269	3,109	2,645	1,715	1,802	1,578	1,768	1,506	1,395	1,273	1,083	888	879	853	979	906	788	903	795	755	795
原紙売上	5,406	4,461	3,871	3,717	2,579	2,363	1,872	2,923	2,558	2,574	2,569	1,965	1,942	1,565	1,374	1,719	1,441	1,434	1,414	1,727	1,703	1,805	2,125	1,851	1,744
合計	9,224	7,666	6,538	6,456	5,848	5,472	4,517	4,638	4,360	4,152	4,337	3,471	3,337	2,838	2,457	2,607	2,320	2,287	2,393	2,633	2,491	2,708	2,920	2,606	2,539

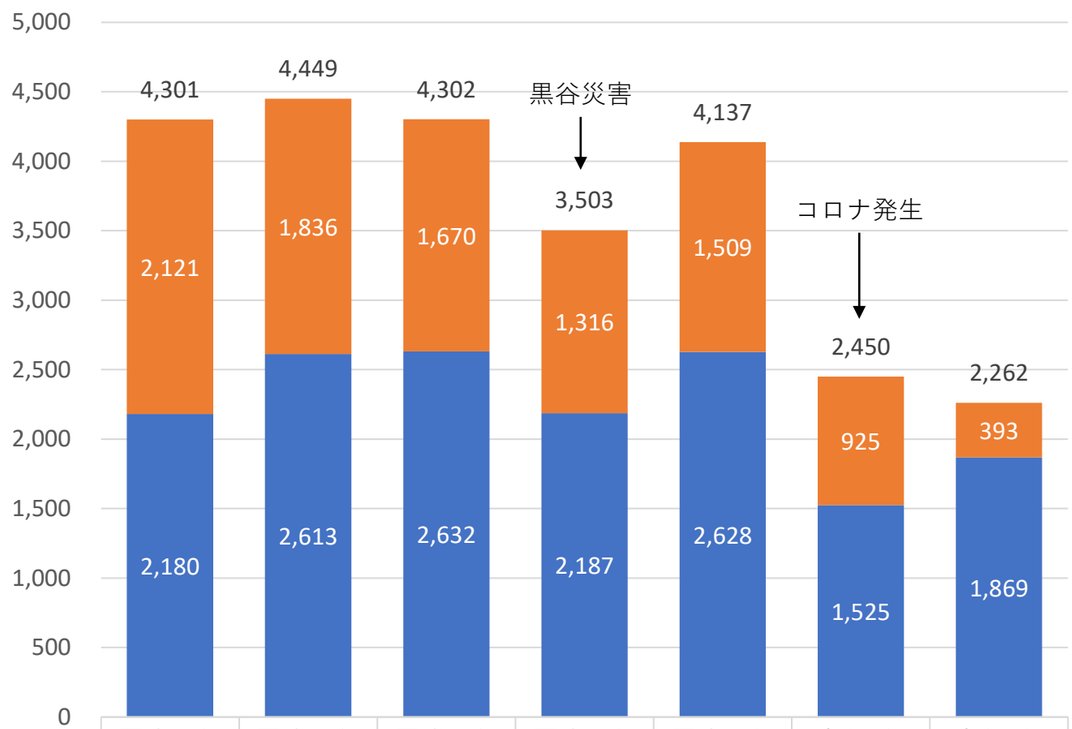
■原紙売上　■加工品売上　合計

（２）入館者数及び体験者数の推移

黒谷和紙会館および黒谷和紙工芸の里における入館者数は平成２７年より平成２９年までは約4,000～4,300人で推移しており、うち紙漉きなどの体験者数は約1,300～1,400人で推移しています。平成３０年は水害に見舞われたため減少したものの、平成３１年には入館者数は再び4,000人を超えています。しかし、令和２年以降はコロナ禍の影響で入館者・体験者数とも約半数に減少しています。（下グラフ参照）

従来黒谷和紙会館では少人数の受入れが主となっており、市内小学生の見学や体験も受け入れていました。また、黒谷和紙工芸の里では、各種団体や観光ツアーなど大人数の団体を受け入れ、市内小学６年生の卒業証書作りも受け入れていましたが、コロナ禍の影響もあって、令和３年４月から緊急措置として、原則２０名以上の団体の紙漉き体験の受入れと卒業証書作成を除き工芸の里の機能を休止しています。

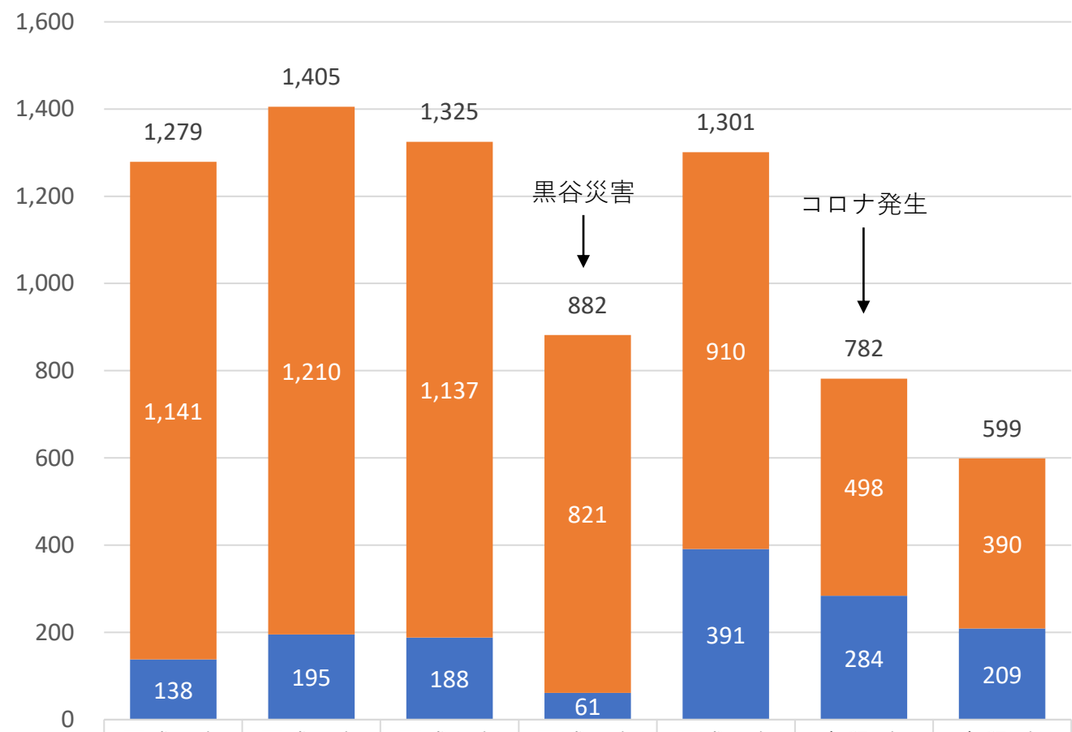
【入館者数推移】



	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年	令和2年	令和3年
工芸の里	2,121	1,836	1,670	1,316	1,509	925	393
黒谷和紙会館	2,180	2,613	2,632	2,187	2,628	1,525	1,869
両館入館合計	4,301	4,449	4,302	3,503	4,137	2,450	2,262

■黒谷和紙会館　■工芸の里

【体験者数推移】



	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年	令和2年	令和3年
工芸の里	1,141	1,210	1,137	821	910	498	390
黒谷和紙会館	138	195	188	61	391	284	209
両館入館合計	1,279	1,405	1,325	882	1,301	782	599

■黒谷和紙会館　■工芸の里

２　黒谷和紙及び黒谷和紙協同組合の抱える課題

本計画では、黒谷和紙工芸の里の機能を黒谷へ移転・統合する考え方をベースにしていますが、現状の黒谷和紙工房及び黒谷和紙会館は施設面での大きな課題を抱えており、黒谷和紙協同組合も運営体制などソフト面で様々な課題を抱えています。

（１）ハード的課題（黒谷和紙工房、黒谷和紙会館）

①「黒谷和紙工房」の老朽化に伴う生産効率の低下

黒谷和紙工房は昭和３０年代に建設され、以後、随時必要に応じて建て増しを繰り返しながら現在の形態となっています。紙漉き作業や乾燥施設として現在も稼働していますが、受注量や職人数の減少などにより稼働率が低下しています。特に原料処理施設の老朽化による不具合が発生しており、メンテナンス作業などにて随時対応はしているものの、完全には修復しきれない部分があるため、原料処理工程を黒谷和紙工芸の里へ持ち込み作業するなど、生産及び作業効率の低下を招いています。

②「見学・体験」や「展示・販売」など、来館者の“受入体制”および“快適性”が不十分

黒谷和紙工房は本来、職人が仕事・作業をするための生産施設であり、前提として来館者を受け入れる構造に対応していません。そのため、見学・体験ルートの流れが悪く、また工房内の体験場所は手狭で冷暖房も完備されておらず、さらにトイレや案内看板なども整備されていないことから、来館者がスムーズに移動したり、快適に過ごせる環境が整っていません。

また黒谷和紙会館の１階で販売、２階で展示を行っておりますが、特に２階の展示室へは階段を昇る必要があるため、高齢者や身障者の方へのご案内は難しい状況にあります。さらに、黒谷和紙の歴史や作業工程を詳しく解説している動画ＰＶを製作していますが、店頭でパソコン用ディスプレイにて放映しているのみで、来館者にじっくりご覧いただける環境が整っていません。

③駐車台数（パーキング能力）が著しく少ない

黒谷和紙会館では来館者用の駐車スペースが３台しか確保できておらず、満車となることが多くあります。また、観光バスやマイクロバスなどで来訪された場合には駐車できない環境であり、徒歩３分ほどの空地を利用していただいている状況です。

（２）ソフト的課題（黒谷和紙協同組合）

①黒谷和紙会館・黒谷和紙工芸の里の２拠点運営による過大な負担

現在黒谷和紙会館と黒谷和紙工芸の里の２拠点で生産・運営を行っていますが、黒谷和紙協同組合は事業規模も小さく既存施設の維持・修繕すら十分にできない状況にあります。売上の減少による組合の資金不足などもあり、今後の施設維持費の増大に対して大きな不安を抱えています。

また、組合員の減少に伴い、かつては農協職員や一線を退いた職人など、組合運営事務のサポートをしていた担い手が徐々にいなくなり、本来は紙漉きに専念すべき現役職人である理事長や専務にそれらの業務負担が及んでいることもあり、組合運営に係る事務負担を軽減していくことが課題となっています。

②後継者確保と育成の問題（紙漉き職人、加工職人）

和紙職人の仕事に興味を持ち職人となることを希望する人材は現在も一定数存在するものと思われます。しかしながら、黒谷和紙は伝統を守る中で手作業が中心となるため、生産性は低く、現状では十分にその対価を商品の価格に反映させることができないことから、将来の生計を立てられるだけの収入を見通すことができず、現在新たな後継者を受入れ、育成していける環境にはありません。

また、加工職人も高齢化していますが、手作業による加工手間賃の収入はわずかで、こちらも新たな職人を育成する環境にはなく、黒谷で受け継がれてきた和紙加工技術の継承が難しい状況となっています。

③組合の売上減少に対する取組の問題

和紙需要の減少や組合自身の生産力の低下に伴い組合の販売額は年々減少傾向にあります。後継者を育て黒谷和紙を将来も存続させていくためには、海外も含めた新たな販路開拓や一定の需要が見込まれる新商品の開発などの取組が必要となります。しかしながら、販売額の減少に伴う組合の資金不足もあって、専門的知識を有する人材や営業戦略を担うような人材を確保することが難しい状況にあります。

④和紙原料の確保の問題（生産と白皮加工）

黒谷和紙は本来地元産（府内産≒綾部産）の楮などの原料で和紙づくりを行うことが理想ですが、これまで楮の生産・出荷に力を注がれてきた市内の生産団体も高齢化等の理由で生産量が減少し、今後の継続が危ぶまれています。現在地元で調達できない原料については、国内の産地や一部海外からも調達していますが、それらも将来的な安定を見込める状況にはありません。このような中で、組合員が協力して自ら楮の栽培に取り組み始めていますが、まだまだその量は僅かでしかありません。

また一方で、楮の皮を白皮に加工する「かごそろえ」の後継者の不足も深刻です。現在は近隣の高齢者が内職的に作業をしていますが、作業時間を勘案すると著しく作業賃が低額であるため、新たな後継者の確保は非常に困難な状況となっています。

3　黒谷和紙工芸の里の継承すべき強み

黒谷和紙会館と黒谷和紙工芸の里の２拠点運営の困難性や立地の問題などを考慮すると、今後は黒谷和紙工芸の里を廃止し黒谷和紙会館へ機能統合をせざるを得ない状況と考えますが、現在の黒谷和紙工芸の里の持つ強みについては、可能な限り黒谷において機能確保に努めるべきと考えられます。

（１）駐車スペースが広く、十分な台数が確保できる

黒谷和紙工芸の里には小学校の校庭を利用した駐車スペースがあり十分な台数が確保できるうえ、大型バスやマイクロバスなどの団体客用車両の駐車にも対応できます。

（２）日当たりが良く湿気が溜まりにくい倉庫スペースがあり、原材料の保管に適している

黒谷和紙工芸の里は小学校の校舎を活用した施設であるため、教室には窓が多数設置されており、風通しや日当たりにも配慮された構造となっていることから、湿気が大敵である紙や原材料の保管に適した十分なスペースがあります。

（３）原料処理機の開発・研究スペースがある

黒谷和紙工芸の里では、黒皮を剥ぐ工程の作業を自動化する機器「かごそろえ」の試作機を設置し、活用に向けた研究を続けています。機器の設置には一定のスペースが必要となりますが、黒谷和紙工芸の里では十分な設置スペースがあります。

（４）展示・販売や見学・体験施設の充実

黒谷和紙工芸の里には多数の教室があり、それらを利用した「展示・販売」や「見学・体験」のスペースが確保しやすい状況にあります。「紙漉き場」と「乾燥室」「原料準備室」など職人の作業スペースを十分に確保したうえで、隣接する事務室や教室で受付、販売、視聴、展示などの機能が整い連動性も確保できています。

Ⅲ　新施設の整備提案

1　新施設の基本的理念

綾部市の伝統産業である「黒谷和紙」の“継承”並びに“振興”を目的とした「新施設の整備」
「新施設」の機能を活用した「観光（ＰＲ）力強化」と「商品ブランド力強化」

【現「黒谷和紙工房および会館」の改善課題】
①生産効率の向上　②「見学・体験」の受入体制の整備
③「展示・販売機能」の強化

【「黒谷和紙工芸の里」の強み継承】
①原料保存に適した保管スペース
②充実した「作業・展示販売・見学体験」機能及びスペース

【黒谷和紙振興計画　新施設の整備】

【ブランドプロモーション
販売システム構築
認知度向上への取組
販売促進・商品開発】

【話題性の発信
賑わい創出】

◇短期的取組
～新施設（ハード）整備計画を推進～
①来館者・職人ともに快適な作業（工房）空間
②作業・工程の流れに沿った配置および順路設定
③十分な原紙および加工品の展示・販売スペースを確保
④テラスなどの“憩い機能”を盛り込み付加価値を創造
⑤内外へＰＲ効果のある大型ビジョンやシンボルの整備

【快適性の向上】

ツーリズムコンセプト
地域他観光資源との連携
体験・イベントのＰＲ
【観光ＰＲ・話題性】

◇中長期的取組
～商品開発力や観光ＰＲ力などのソフト面強化施策を推進～

① 伝統工芸や伝統文化に関心ある方には“触れあい”を、関係が薄い方には“出会い”を生み出す新たな「仕掛け」
② 新施設の快適性や体験機能の向上による「賑わい」や商品開発・ブランド力強化による「話題性」の創出
③ 多種多様なＰＲポイントを整備し、新たな魅力を創成し、幅広い客層を取り込むための「ＰＲ力」

2　新施設の整備イメージ

（1）必要とする機能と改善効果

必要な機能	具体的な役割	改善効果
多目的施設 （コンシェルジュ）	⇒体験・見学に向けた展示や休憩所としての機能（自販機等の設置） ⇒来館者の待合室的役割を果たし、大型ビジョン等でのＰＲ動画を放映 ⇒原紙や加工品の特別展示やミニイベントスペースとしての機能	見学・体験・展示機能の強化 観光客の快適性向上 認知度・売上高向上
憩いの場 イベントスペース （テラス）	⇒周辺の景観を眺めながら、来館客に休憩して頂く場所として利用 ⇒例えば、桜の季節には花見会などイベントを開催する場として活用 ⇒普段の仕事・作業では職人が干場や屋外作業に利用可能	観光客の快適性の向上 販売機能の強化 企画・イベント開催の強化
作業順路 見学通路 （モール）	⇒和紙の原料準備から紙漉き、乾燥まで和紙作りの工程順を適切に配置 ⇒屋内外に見学通路を整備、天候・季節に左右されず快適に見学可能 ⇒黒谷川から引き込む水路も施設内の景観として、美しく清らかな流れを体験 ⇒工房にエアコンを設置し、見学者等への配慮と職人の作業効率の向上を図る	観光客の快適性の向上 職場環境の快適性の向上 生産効率の向上
シンボル	⇒施設（敷地）内に黒谷和紙ならではのシンボル（水車等）を設置 ⇒体験と併せて来館記念のＳＮＳ等へのアップによる話題性創出を促す設備	話題性・ＰＲ力の強化

（２）施設に必要となる主な仕様

作業場の名称	作業内容や必要な機能等	設置が必要な主な生産設備	
		設備名（台数）	概算寸法（cm）
かご炊き・みだし場	①原木蒸し作業 　刈り取った楮の原木を釜で蒸し、楮の皮を剥ぎ取りやすくする。 ②原材料の煮熟作業 　釜を使用し原材料（楮の皮）の煮熟を行う。 ③みだし作業 　煮熟して柔らくなった楮を水槽に移し、アク抜きを行った後、楮に残る傷を２～３日かけて一つずつ手作業でとる。	釜大（１台） 釜小（１台） みだし用水槽　（２台） かごそろえ機（既設 １台）	D155×W150×H55 D140×W150×H55 D90×W150×H60 D62×W82×H83
打解・ビーター（叩解）作業場	①打解作業 　みだし作業を終えた楮を打解機で叩きほぐす。 ②ビーター作業 　打解作業を終えた楮をビーターという機械を使いさらに細かくほぐす作業。ほぐれた楮を水槽に受け紙素ができる。 ③さなてぎ（ねりづくり）作業 　専用の機械（さなてぎ機）を使用して、トロロアオイの根を叩き、紙漉きに必要な粘液を採取する。	ビーター大（1台） ビーター小（既設 １台） 打解機　（２台） さなてぎ機（１台） 紙素受け水槽（１台）	D200×W242×H126 D150×W185×H126 D120×W250×H270 D110×W200×H245 D98×W183×H60

（２）施設に必要となる主な仕様

作業場の名称	作業内容や必要な機能等	設置が必要な主な生産設備	
		設備名（台数）	概算寸法（cm）
紙漉き場	①紙漉き作業 　職人４人が作業できる紙漉き場。 　漉舟に水（井戸水又は水道）と紙素、ねりを入れ簀桁という道具を使い紙漉きを行う。天井に設置した弓竹と簀桁をつなぐことで、水の入った簀桁を軽くし作業をしやすくするため、職人は常に同じ漉舟を使用して作業を行う。 ②ジャッキ圧搾作業 　漉き終えて紙床（しと）台に重ねた紙をまとめてジャッキに移し、一晩かけて圧搾を行い水分を絞る。	漉舟　（既設 ４台） ジャッキ　（２台） 水洗用水槽（１台） 紙床（しと）台 （既設 ４台）	D90×W190×H40 D86×W250×H200 D90×W190×H60 D82×W143×H70
紙漉き場（染場）	染紙づくり専用の作業場。紙漉き作業に加え、染紙づくりのための作業工程を行う。 　また、染紙用の漉舟に換えて漉舟（大）を使用した紙漉き作業ができるスペースを確保する。	漉舟（既設 １台）　又は 漉舟　大（既設 １台） 染用水槽（２台） ジャッキ（１台） 流し台（１台） 棚 （染料等収納） 紙床台（既設 １台）	D90×W190×H90 D150×W250×H90 D90×W150×H60 D86×W250×H200 D60×W150×H80 D50×W90×H180 D82×W143×H70
乾燥場	火力乾燥を行う作業場。　ジャッキで圧搾を終えた紙を、１枚ずつ蒸気で温めた乾燥機の表面に貼付け乾燥させる。	三角乾燥機（既設 １台） 乾燥機用ボイラー （既設 １台） 紙置き用机　（２台）	D100×W200×H160 D70×W62×H170 D85×W180×H70

（２）施設に必要となる主な仕様

作業場の名称	作業内容や必要な機能等	設置が必要な主な生産設備	
		設備名（台数）	概算寸法（cm）
紙つけ場	天日干しのための紙つけ（紙を干し板に貼り付ける）作業場で、干し板の収納場所となる部屋。ここで紙付けをした後、天日干しにする。	紙置き用机　（２台）	D85×W180×H70
紙漉き体験場	紙漉き体験専用のスペース。一回り小さい漉舟を使用しハガキ漉きや色付け作業を体験する。	体験用漉舟　小（既設 ２台） ジャッキ （１台） 体験用色付け台 （既設 ３台） 収納棚（２台） 紙床台（既設 １台）	D66×W140×H90 D86×W250×H200 D60×W120×H70 D50×W90×H180 D82×W143×H70
多目的スペース（２階道具保管室）	主に体験や見学者（１０人程度以上）の休憩所や待機場所としての機能を持たせる。 映像モニターの設置や小規模展示スペースの確保（パネル、商品展示など）に加え、バックヤード機能や簡易な事務スペース（机２台程度）も確保する。 一部２階を確保し、簀桁などの道具保管場として利用できるようにする。	映像モニター設備（１台） 商品等展示ケース（１～２台） 休憩用のいす、テーブルなど	―

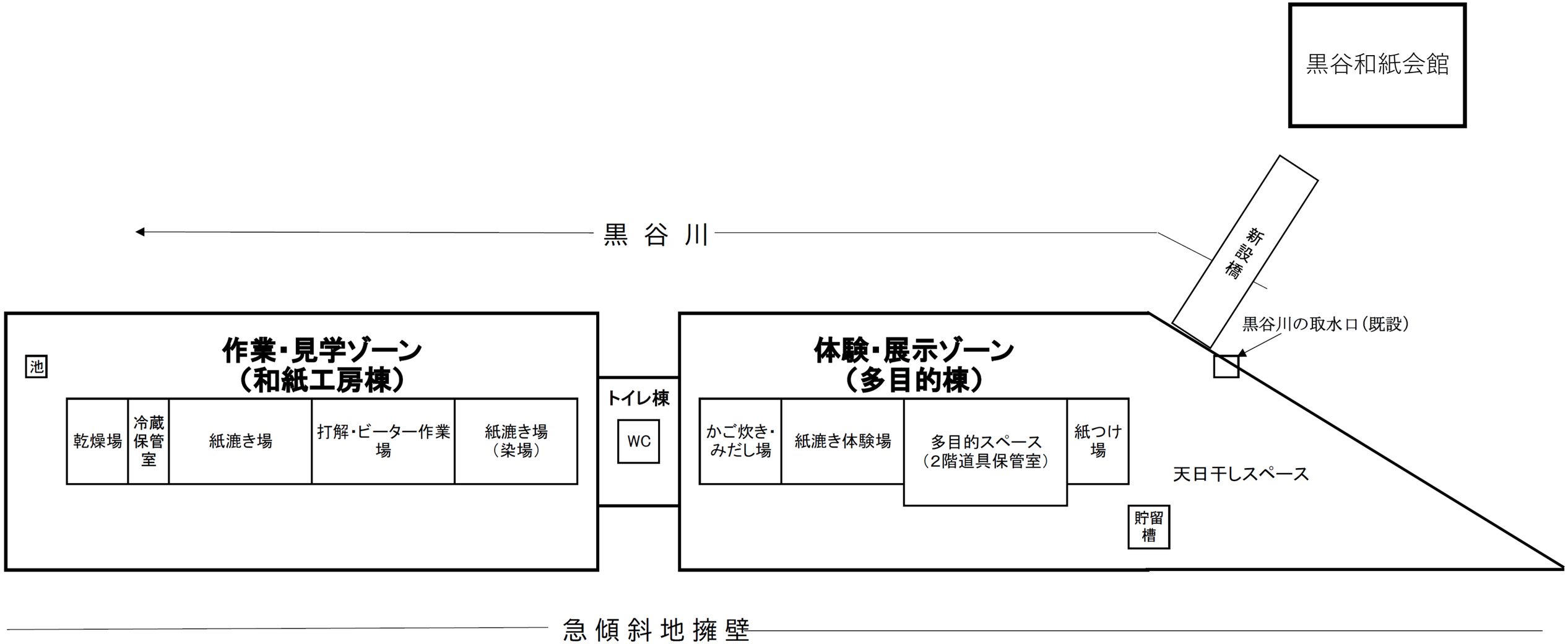
（２）施設に必要となる主な仕様

作業場の名称	作業内容や必要な機能等	設置が必要な主な生産設備	
		設備名（台数）	概算寸法（cm）
原材料冷蔵保管室	原材料の冷蔵保管専用の倉庫として使用。	プレハブ冷蔵庫（１台） 冷凍庫（既設 ２台） 玄米保冷庫（既設 １台）	D150×W270×H200 D70×W165×H70 D98×W154×H198

その他の周辺施設や留意点等
①屋根からの大量の落雪に対する備えとして、施設の裏側（山手側）は下屋を大きめにとる。また、排雪場としても活用できるよう山手側にも水路を整備する。 ②過去の大雨被害を考慮し、施設を全体的に床上げする等の水害対策を望む。 ②施設全体で、できるだけ倉庫（物置）スペースを確保する。 ③トイレを設置する（独立の建物でもなくてもよい）。 ④生産に使用する水は、上水道、井戸水、黒谷川の水（取水設備→浄化槽→貯留槽→生産設備）を使い分ける。 ⑤黒谷川から取水した水の一部を敷地内建物前面に整備する水路に流し適当な場所に洗い場（１か所以上）と流末付近に大き目の洗い場として使用できる池を設置する。 ⑥井戸を新たに設置し、紙漉き等で直接使用するほか、黒谷川の渇水時には貯留槽へ補填できるようにする。 ⑦貯留槽は景観を考慮し、できるだけ目立たない場所に設置。 ⑧敷地の最も上流側に、天日干しできるスペースを残す。スペースのみで、特に設備は不要。

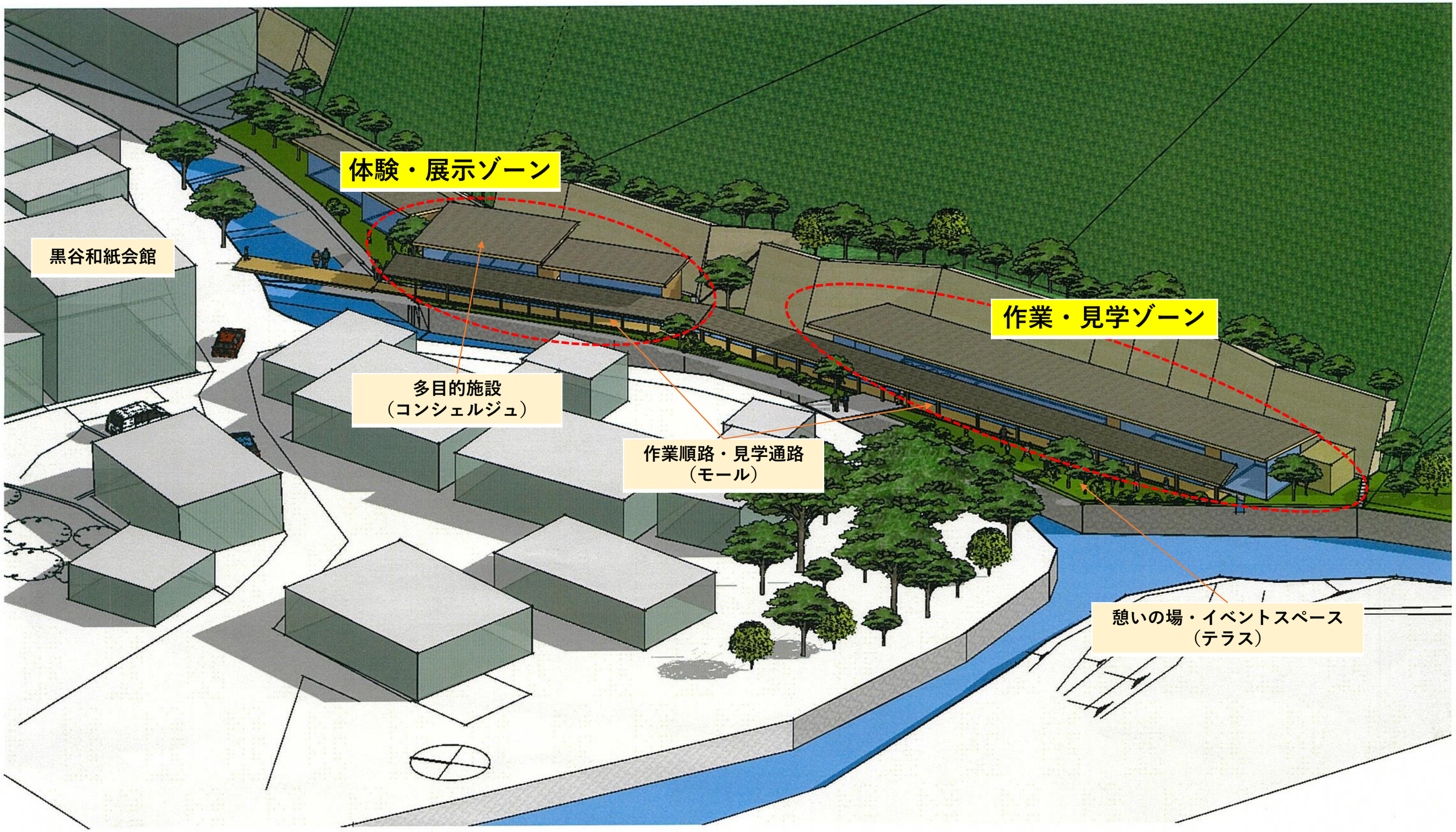
（２）新施設の作業場配置イメージ

現在の和紙会館を残した状態で、必要な作業場を敷地内に配置。



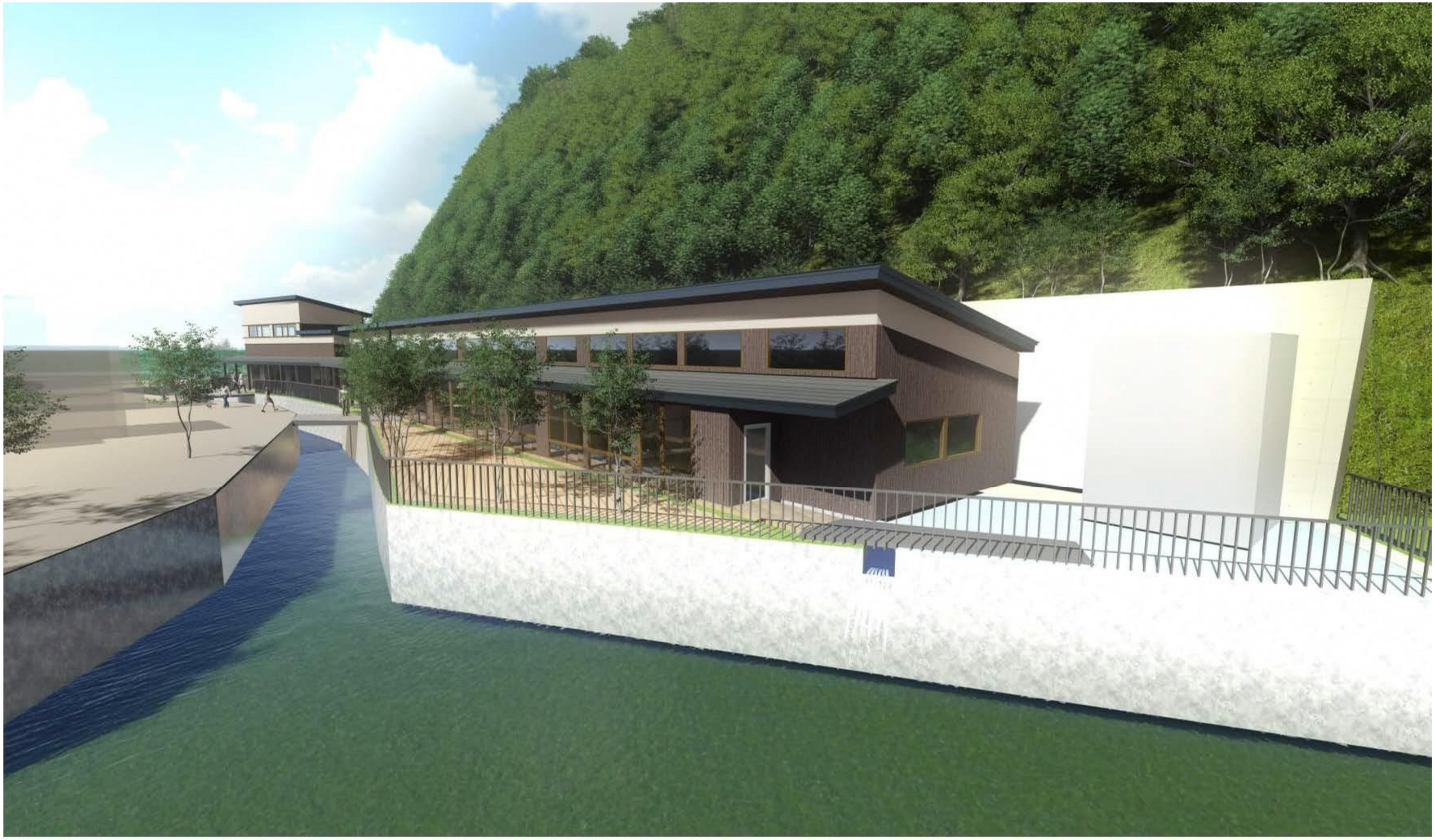
※平成30年に発生した水害被害を鑑み、新施設整備時には全体的に床上げを施す計画としている。詳細な内容については基本計画にて立案。

（3）新施設の全体イメージ



【参考：新施設のイメージパース①】

【参考：新施設のイメージパース②】



【参考：新施設のイメージパース③】

（５）新施設の目指すイメージ

憩いの場・イベントスペース（テラス）

作業順路・見学通路（モール）

黒谷和紙会館

多目的施設
（コンシェルジュ）

黒 谷 川

新設橋

黒谷川の

池

作業・見学ゾーン
（和紙工房棟）

冷蔵保管	紙漉き場	打解・ビーター作業場	紙漉き場（染場）

トイレ棟

WC

体験・展示ゾーン
（多目的棟）

かご炊き・みだし場	紙漉き体験場	多目的スペース（2階道具保管室）	紙つけ場

天日干しスペース

貯留槽

シンボルの設置

急 傾 斜 地 擁 壁

（６）概算事業費

（消費税等は別途）

	工事名称	工事内容及び形状寸法等	金額（円）
建屋建築工事	既存建物解体工事		7,600,000
	建屋建築工事	多目的棟・トイレ棟・和紙工房棟（約５３０㎡）	139,600,000
	外構工事	雨水排水、排水貯留槽、水車、植栽、舗装工事含む　※新設橋工事は別途	32,000,000
	電気・空調・換気設備工事	エアコン、キュービクル等含む	52,800,000
	給排水衛生設備工事	機械設備・浄化槽、井戸設置、川水引込関係は含む	59,700,000
	共通仮設工事	ガードマン積上げ	13,700,000
	現場管理費		35,700,000
	一般管理費		42,400,000
	太陽光発電設備工事	太陽光発電 約10ｋｗ　一式	9,800,000
	その他	和紙づくりに係る特殊な機械設備、備品類（打解機、さなてぎ等）及びその他予備費等	19,700,000
		建屋建築工事 小計	413,000,000
その他	設計・監理費（解体）	既存建物調査、既存図復元、アスベスト調査等含む	4,000,000
	設計・監理費（建替え）	基本・実施設計、積算業務・各種申請等業務含む　注）	30,000,000
		工事費　合計	447,000,000

注）平成31年国土交通省告示第98号による設計監理業務標準人・時間と2022年度国土交通省技術者標準日額（技師C 技術者単価32,800円/日）を基に、標準外業務と弊社実績値等により算出、新設橋の設計監理等は別途

※ 基本構想段階での大概算のため、今後、詳細設計や関係各課との協議等により計画案及び金額が変更になる場合があります。
※ 現況測量、地質調査等の専門性を有する調査業務等は別途。　※ 既存擁壁・河川護岸の安全性確認及び補強検討業務等は別途。
※ 新設橋の工事費概算及び設計等については、協議含め土木設計等のため別途。

（７）整備手法の検討

今回提案の新施設については、本来であれば黒谷和紙協同組合が自ら建設・整備すべきものでありますが、課題でも述べてきたとおり、現在の組合にはその資金を賄うことや調達・返済していく貯えや実力が大きく不足しているのが現実です。

しかしながら、綾部市の貴重な財産ともいえる黒谷和紙を未来に継承していくためには、今回提案する施設整備がどうしても必要と考えらえられる中で、大変厚かましい提案とはなりますが、公設民営の施設として綾部市が設置主体となり、組合で運営させていただく形をご検討願いたいと考えます。

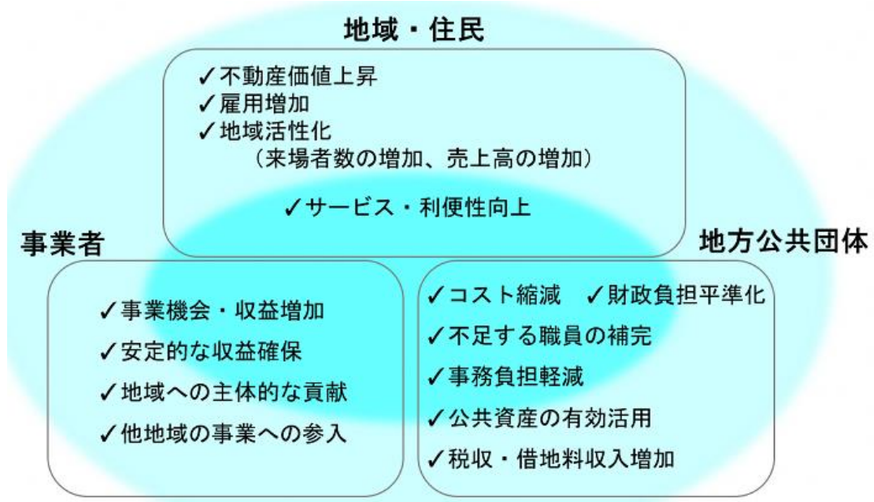
また、整備手法については、現地における事前の測量・調査や関係する法令等の十分な調査・確認等を行うことが前提とはなりますが、整備のスピードや民間活用による手続き等の簡素化などからＰＦＩ方式による建設なども検討の余地があると考えられます。しかしながら、過疎債など有利で確実な財源が見込まれる場合は、公共建築物の一般的な建設手法によることが財政負担の面では有利と思われます。

【参考：ＰＰＰ／ＰＦＩ（官民連携）の概念】

多くの地方公共団体にとって、厳しい財政状況や人口減少、公共施設の老朽化などに適切に対応しながら、活気に溢れる地域経済を実現していくことは、喫緊の課題です。PPP（Public Private Partnership）とは、公共施設等の建設、維持管理、運営等を行政と民間が連携して行うことにより、民間の創意工夫等を活用し、財政資金の効率的使用や行政の効率化等を図るものであり、**指定管理者制度**や包括的民間委託、**PFI（Private Finance Initiative）**など、様々な方式があります。地域の様々な状況・課題に対応するため、各地域の実情にあわせた様々な官民連携事業が全国で検討・実施されています。官民連携（PPP/PFI）により、良質な公共サービスの提供やコスト削減、地域活性化など、様々な効果が期待できます。今後の地域経済の持続的な発展に向けて、このような官民連携手法の積極的な導入検討が求められています。

【ＰＰＰ/ＰＦＩの概念図】

【ＰＰＰ/ＰＦＩの効果】



※国土交通省ＨＰより引用

【参考：ＰＰＰ／ＰＦＩとは】

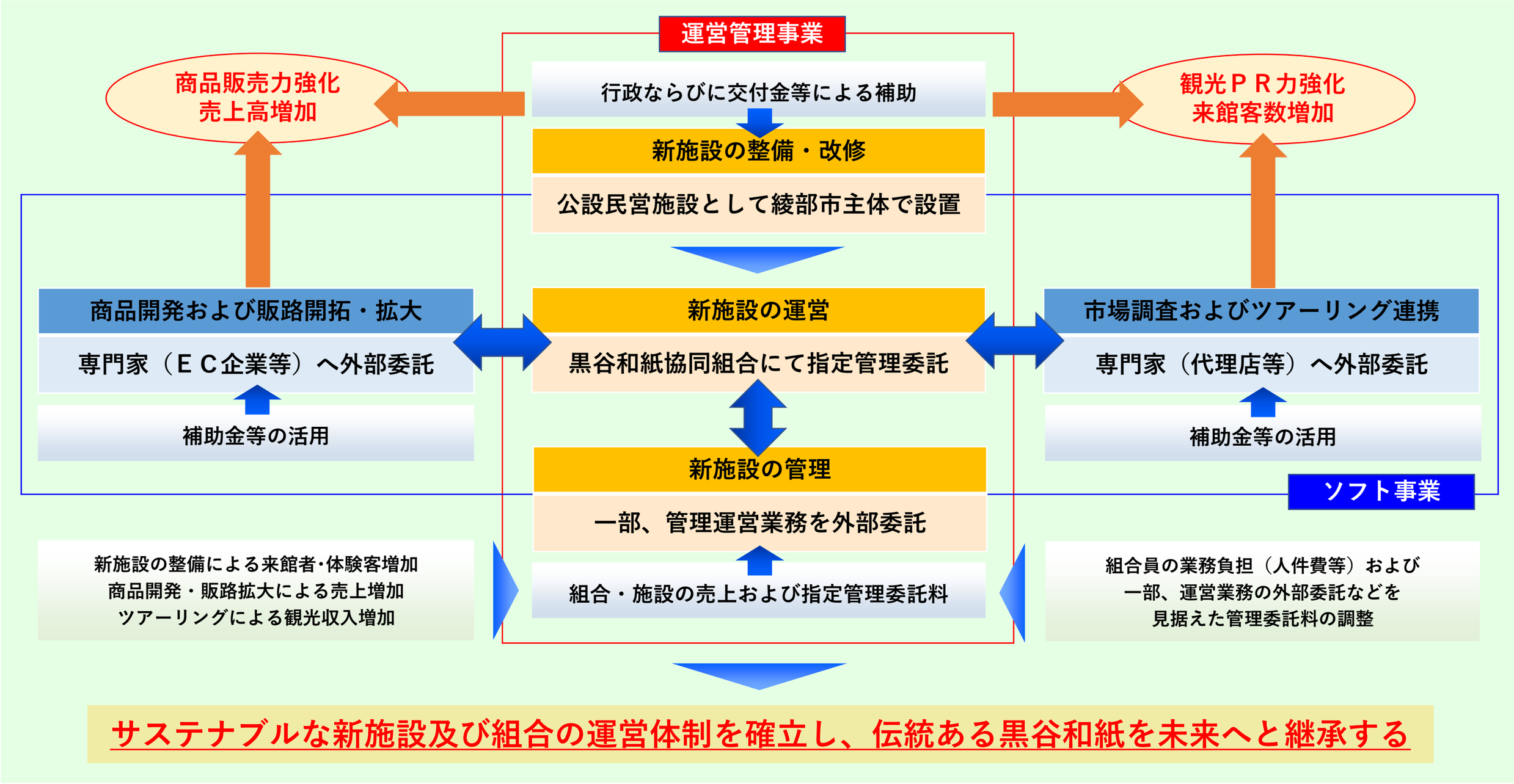
用語	解　　説
ＰＰＰとは	公民が連携して公共サービスの提供を行うスキームをＰＰＰ（パブリック・プライベート・パートナーシップ：公民連携）と呼ぶ。**ＰＦＩはＰＰＰの代表的な手法**の一つ。ＰＰＰの中には**ＰＦＩ**、**指定管理者制度**、市場化テスト、公設民営（ＤＢＯ）方式、さらに包括的民間委託、自治体業務のアウトソーシング等も含まれる。
ＰＦＩとは	ＰＦＩ（プライベート・ファイナンス・イニシアティブ）とは、公共施設等の設計、建設、維持管理及び運営に、民間の資金とノウハウを活用し、公共サービスの提供を民間主導で行うことで、効率的かつ効果的な公共サービスの提供を図るという考え方です。サッチャー政権以降の英国で「小さな政府」への取り組みの中から、公共サービスの提供に民間の資金やノウハウを活用しようとする考え方として、ＰＦＩは1992年に導入されました。ＰＦＩの考え方は英国で生まれた構想でありますが、これに類似した公共事業分野への民間参画の取組は世界各国においても行われており、ＰＦＩは「小さな政府」や「民営化」等行政財政改革の流れの一つとして捉えられるものです。**ＶＦＭ（ヴァリュー・フォー・マネー）はＰＦＩの基本原則**です。ＰＦＩは過去に日本国内では、ほとんど例のなかった本格的なプロジェクトファイナンス導入へもつながるものと期待されています。ただし、ＰＦＩ事業は幅広い分野で検討されるべきものであり、ＰＦＩの手法の適用しやすい分野から導入を進めて行くのが望ましいでしょう。
ＶＦＭとは	ＶＦＭ（ヴァリュー・フォー・マネー）とはＰＦＩの基本原則の一つで、**一定の支払に対し最も価値の高いサービスを提供する**という考え方です。公共サービス提供期間中にわたる国及び地方公共団体の財政支出（適切な割引率により現在価値化された総事業コスト）の軽減が図られ、あるいは、一定の事業コストの下でも、経済･社会への変化に対応したより水準（質･量）の高い公共サービスの提供が可能となることがＰＦＩでは必要です。ただし、これからの公共サービスは、より質が重視されるものと考えられますので、必ずしもコストの低い事業者のものがよいということではありません。また、ＰＦＩ事業による公共サービスの提供は長期にわたるものであり、事業が開始された後の維持･管理またモニタリングといったものが、本当の意味でＶＦＭを計る大きな要素となり重視しなければならないでしょう。

※日本ＰＦＩ･ＰＰＰ協会ＨＰより引用

（８）運営方法の検討

市で新施設を整備していただいた場合の管理・運営方法については、指定管理施設としての運営が適当であると考えます。当然、黒谷和紙協同組合が指定管理者として施設を適切に運営できるよう最善を尽くす考えです。

しかしながら、組合におけるマンパワーは不足しているのが実態であり、施設が充実することを契機として、その管理・運営・活用に係る新たな人材を確保し体制を強化する中で、黒谷和紙の再活性化を図っていきたいと考えています。



Ⅳ　施設整備に合わせた黒谷和紙振興の取組

1　振興施策（ソフト事業）の考え方

新施設の機能を最大限発揮していくためには、施設そのものを適正に運営していくことに加えて、黒谷和紙の振興、活性化について現状や課題を踏まえたソフト事業の取組をこれまで以上に強化・充実していく必要があります。

組合としても、限られたマンパワーの中ではありますが、黒谷和紙を健全な姿で後世へと継承していため、この機会を逃すことなく、改めて事業の見直しや新たな取組にもチャレンジしていきたいと考えています、

綾部市に長きにわたり継承されてきた貴重な伝統産業であり文化的資源でもある黒谷和紙。その活性化に向けたソフト事業の取組について、引き続き行政等によるご支援をお願いします。

2　組合等の具体的取組及び行政等による支援のお願い

（1）新施設の運営

組合ならびに産地等の主な取組	行政等による支援のお願い
◇施設の適正な運営体制の確立	**◆新施設の指定管理者制度運用に向けた調整（支援希望事項①）**
◇黒谷和紙の見学や製作体験の充実と普及	◇補助金等の支援制度活用に向けた指導等
◇黒谷和紙の生産性向上に向けた取組の実施	◇人材支援（職員派遣の継続など）

（2）ＰＲ体制の強化と新たな販路の開拓

組合ならびに産地等の主な取組	行政等による支援のお願い
◇魅力を伝え販売に繋がるＥＣサイトの活用や海外への販路開拓	◇補助金等の支援制度活用に向けた指導等
◇インターネット、ＳＮＳ等を通じた魅力発信による顧客の獲得	◇商品の魅力を伝え販売促進に繋がる場の提供
◇観光や他の地域資源と連携した事業企画の実施	◇市ホームページやパンフレット等を活用したＰＲ強化
◇インテリア向けの原紙販売の強化	**◆広報・販売促進に係る支援の強化（支援希望事項②）**

（3）商品の魅力向上

組合ならびに産地等の主な取組	行政等による支援のお願い
◇既存商品のブラッシュアップと新たな定番商品の開発 ◇異業種・異分野との交流による新たな展開の模索	◇補助金等の支援制度活用に向けた指導等 ◇求められる商品づくりのためのブランディング支援 ◇商工会議所等の支援機関や市内企業・事業者等との連携支援

（4）産地の将来を担う人材の育成・確保

組合ならびに産地等の主な取組	行政等による支援のお願い
◇和紙づくり体験プランの実施やインターンシップの受入 ◇市内小学生等の体験学習への積極的協力	**◆後継者育成支援制度に係る補助金の充実（支援希望事項③）** ◇和紙づくりとの兼業化に向けた地元企業とのマッチング支援 ◇体験プラン実施やインターンシップ受入などの取組に対する支援 ◇移住促進制度とセットにした人材確保の仕組づくり

（5）生産基盤の安定

組合ならびに産地等の主な取組	行政等による支援のお願い
◇原材料確保の安定化に向けた各種取組（組合員による楮栽培等） ◇関係機関を通じた原材料の確保や流通に関する情報収集 ◇若手技能者の研鑽・交流など技術・機能の向上や継承への取組	**◆楮生産奨励策の更なる充実（支援希望事項④）** **◆和紙原材料の確保支援（支援希望事項⑤）**

V　数値目標等

1　数値目標の設定

本計画の提案に当たり、黒谷和紙は大変厳しい状況下にはありますが、以下のとおり目標数値を設定し取り組んで行くこととします。なお、目標とする年度は新施設運営開始後３年以内とします。

①黒谷和紙会館入館者数

コロナ禍前となる令和元年度の黒谷和紙会館、黒谷和紙工芸の里を合わせた入館者数は4,137人となっていますが、この中には両施設の重複訪問者が相当数含まれていると考えられます。同年度の黒谷和紙会館入館者数は2,628人であったことも踏まえ、コロナ禍前の２施設を合わせた実績を超える年間5,000人の入館者を目標とします。

◎新施設運営開始後３年以内　‥‥　年間　５，０００人

②黒谷和紙体験者数

コロナ禍前となる令和元年度の２施設を合わせた全体の体験者数は1,301人となっていますが、工芸の里機能を黒谷に集約した後の体験者収容能力についてはある程度の減少が見込まれるところです。しかしながら施設と人員体制を充実することにより、近年で最も実績が多かった平成２８年の２施設を合わせた人数を超える年間1,500人の体験者数を目標とします。

◎新施設運営開始後３年以内　‥‥　年間　１，５００人

③黒谷和紙売上額（組合）

組合の売上額は原紙の販売による影響が大きいことから、コロナ禍や災害等の短期的な影響をあまり受けていないところです。組合販売額は平成２１年度以降２千万円台となっていますが、令和３年度は原紙販売において特需があり3,136万円となっています。新施設の稼働による生産の効率化や新たな職人の確保、販売促進の取組などにより、売上額を令和３年度実績を超える3500万円以上へ回復させること目標とします。

◎新施設運営開始後３年以内　‥‥　年間　３，５００万円以上

④黒谷和紙に係る職人の数

黒谷和紙に係る職人の人数は年々減少してきており、現在紙漉き職人は実質８人、加工職人は３人となっていますが、今後黒谷和紙を継承していくためには、これ以上の職人の減少に歯止めをかける必要があります。加工職人の高齢化も踏まえ、新施設の稼働と後継者育成制度の充実により、紙漉きも加工もできる新たな職人を1人以上確保することを目標とします。

◎新施設運営開始後３年以内　‥‥　新たな職人を1人以上確保

2　おわりに

黒谷和紙協同組合の設立から２６年、黒谷和紙工芸の里の開設からも１７年が経過し、現在黒谷和紙がさまざまな課題に直面する中で、組合の視点から「黒谷和紙振興計画」を策定し提出させていただきました。

本文の中でも触れていますとおり、本計画は拠点施設の整備を核としながらソフト施策も含めた事業計画（基本計画）としています。

しかしながら、将来にわたる黒谷和紙の継承と発展を目指すために必要と考えられる施設や機能を現実に確保していこうとすると、計画にも示すとおり、概算ではありますが非常に大きな事業費が必要と見込まれるところです。

もとより当組合には建築や建設に詳しい人材もいないため、このような提案をしておきながら大変恐縮ではありますが、本計画の内容を綾部市において十分精査していただき、事業実施の是非や実施範囲あるいは実施時期や実施方法などついて慎重にご検討いただく中で、今後の方針を決定していただくことを切に望む次第です。